

18	豊田	高橋中学校	シミズ ショウタロウ 氏名 清水 正太郎
分科会番号	19	分科会名	図書・学校図書館

研究題目 複数の意見を基に、自分の考えを深め、多面的な視点で考える生徒の育成
 — 新聞記事を活用した多面的思考をはぐくむ授業づくり —

1 主題設定の理由

本学年は、話し合い活動になると自分の考えを積極的に述べる生徒が多く、授業でも発言が途切れずに続けることができる。しかし、発言内容が「なんとなくそう思う」「～っぽいから」など感覚的な理由で終わることが多く、根拠（事実・データ・具体例）に基づいて説明することが十分にできていないと言えない。意見文の作成では、主張と理由が対応していなかったり、根拠が自分の体験や感想のみに偏ったりして、読者を説得する文章になりにくいという課題が見られた。

また、情報収集はインターネット検索に慣れている一方で、新聞や書籍など複数資料を往還しながら信頼性や立場の違いを判断する力が弱い。特に、興味関心に沿う情報を優先的に受け取りやすく、異なる視点に触れる機会が少ないことから、フィルターバブルに陥る懸念があった。情報化社会では、情報の取捨選択、対話を通じた合意形成や思考の深化、論理的表現がより求められるため、「読む」「書く」「話す・聞く」を統合した学習過程を設計する必要があると考えた。

2 目指す子ども像

根拠を明確にし、多面的な視点で考えることができる生徒

最終的な目標を「新聞社へ投書すること」と位置づけることで、単なる作文ではなく「社会の読者に向けた発信」という目的意識をもたせ、根拠の質と表現の配慮（中傷・差別の回避、反対意見への向き合い）を意識化することをねらった。

3 仮説と手立て

【仮説1（異なる視点で記事を読む力の獲得）】

意見文の読み比べや新聞記事を活用したジグソー学習において、記事の要点を異なる視点から整理して共有すれば、客観的かつ批判的に読む力が高まるであろう。

手立て1—① 意見文の読み比べの実施

同じテーマで異なる筆者の意見文を読み比べる活動を設定し、「主張はどこか」「根拠は何か」「読者をどう動かそうとしているか」など、批判的に読む視点を共有する。生徒が感想を述べるだけで終わら

ないよう、観点を明示して「よいと思った理由」を言語化できるようにする。

手立て1—② ジグソー学習（4人班、1人1観点担当）の導入

「示されている数値」「報じられている事実」「記者の立場が読み取れる記述」「記事から読み取れる記者の立場」の4つの観点を設定し、担当観点で「記事を読む→要点を抜き出す→整理して説明する」というプロセスをワークシートで段階化し、まとめが苦手な生徒でも記事の要点を整理できるようにする。

【仮説2（根拠に基づく表現の定着）】

意見整理シートを活用し、根拠を明示した文章構成を段階的に指導すれば、社会生活の中から題材を決め、集めた材料を客観性や信頼性を確認し、根拠に基づいた意見文を作成できるであろう。

手立て2 意見整理シートの活用

テーマ決定から投書文完成までを一枚で見通せるようにし、理由と根拠（出典）を対応させる欄、反対意見とそれへの応答欄、読者への働きかけ欄を設け、「自分の意見だけを述べる文章」から「根拠と配慮を伴う社会的発信」へと質を高めることを狙う。

【資料① 使用した意見整理シート】

4 抽出生徒について

生徒Aは、話し合いでは意欲的に発言でき、思いついたことを自分の言葉で述べようとする力がある。一方で、「なんとなく」「～っぽい」など発言の根拠が薄く、感覚的な表現に寄りやすく、理由や具体例、事実（データ）まで示して説明する場面が少ない。文章化すると、主張は書いても理由が一般論にとどまったり、根拠が自分の体験だけに偏ったりして、主張と理由・根拠のつながりが弱くなり、読み手に伝わる説得力が不足しやすい傾向が見られた。そこで、本実践では、観点に基づいて文章や記事を読み取り、根拠を明確にして述べる経験を積ませるとともに、対話を通して別の視点を取り入れ、自分の考えを多面的に見直して、読者に届く論理的な文章に整えられるようになることを目指した。

5 単元構想について

事前に学習環境の整備として、学級配布の新聞を1か月分蓄積し、授業で扱う前から新聞に触れる機会を確保した。生徒は「気になる記事」を日常的に探し、学習用タブレットで撮影してアルバムに保存した。これにより、第4時以降のテーマ設定・根拠提示の段階で、個々の関心に基づく資料を即座に参照できるようにした。あわせて、同一テーマでも別日・別面で扱いが変わることを意図的に示し、一つの情報源に依存しない姿勢（フィルターバブル回避）を促した。

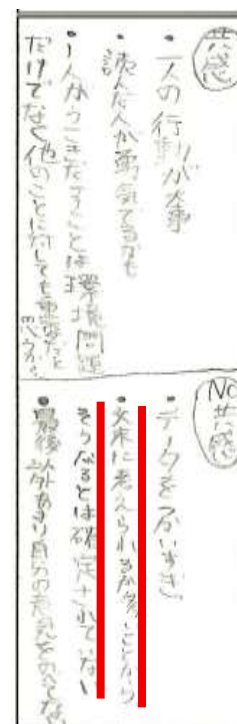
時間	学習課題	授業の内容
1	文章を批判的に読み、論理の展開や表現のよさを取り入れよう。	意見文の特徴を批判的に読み取り、本単元のゴールを知る。【手立て1－①】
2	新聞記事を読み取り、要点を整理して仲間に説明しよう。	新聞（記事）を観点別に読み、要点を整理する。【手立て1－②】
3	複数の記事の違いを整理し、報道文を読むときの注意点を考えよう。	複数の記事を比較し、共通点・相違点と記者の立場、読みの注意点を整理する。
4	意見を根拠とともに整理し、下書きの骨格をつくろう。	テーマを定め、意見整理シートで立場・理由・根拠（出典）を整理する。【手立て2】
5	互評で得た視点を取り込み、文章の骨格を改善しよう。	互評で多面的に見直し、意見整理を修正して400字執筆を開始する。
6	新聞社に投書するつもりで、意見文を完成させよう。	投書文を完成させ提出し、新聞社投稿に向けて整える。

6 実践と考察

(1) 仮説1について（手立て1－①）

教科書P130～133の同じテーマで異なる筆者の意見文を事前読みにし、「いいなと思ったところ」を共有した。当初は「読みやすい」「言い切っていてすごい」など感想が中心であったため、教師が板書で「主張／理由／根拠／読者への働きかけ」の観点を提示し、発言を観点到結びつけて言い換える支援を行った。例えば「読みやすい」は「段落ごとに主張→理由→まとめの順になっている」へ、「すごい」は「具体例があり、読者が想像しやすい」など観点を明示することで言語化することができた。

実際に生徒Aは、意見文の「いいなと思ったところ」を「読みやすい」「すごい」だけで終わり、理由が言語化できなかったが、観点提示後には「読みやすい」→「最初に主張があって、次に理由、最後にまとめになっている」、「すごい」→「具体例が入っていて、読者が想像しやすい」と具体的に言い換えることができた。続いて、実際の新聞投書欄（中学生の掲載例、朝日・中日の投書例）を提示し、教科書の意見文との共通点・相違点を確認したところ、生徒からは「短いのに言いたいことが分かる」「最初の一文で立場がはっきりしている」「反対の人にも配慮している」など、読者意識に触れる発言が増えた。



【資料② 生徒Aの振り返り】

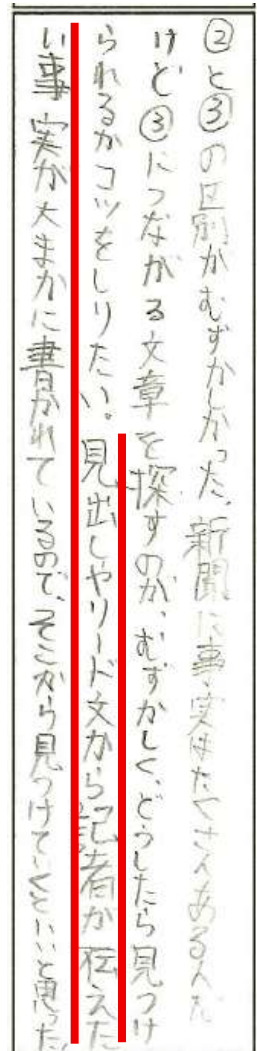
さらに生徒 A の振り返りの記述でも「文末に『考えられる』が多いことからそうだと確定されていない」（資料②）と書き、自分視点の感想から読者を意識した表現への移行が見られた。

（２）仮説 1 について（手立て 1—②）

紙面構成（見出し・リード・本文）を再確認した上で、教科書 P78～81 の二つの記事を用いてジグソー学習を行った。第 2 時ではエキスパート活動として、観点を教科書 P82 を参考に「示されている数値／報じられている事実／記者の立場が読み取れる記述／記事から読み取れる記者の立場」を中心に設定し、4 人班で 1 人 1 観点を担当した。スライドに『①まず見出しとリードを読む→②事実だけに線→③評価語・断定語に印→④立場を推論し理由を書く』という手順を明示し、まとめが苦手な生徒でも要点を整理できるようにした。結果として、「報じられている事実」担当は固有名詞・数値・出来事を抜き出しやすく、「記者の立場が読み取れる記述」担当は『～すべきだ』『問題だ』など評価語に着目するようになった。「記事から読み取れる記者の立場」担当は当初「よく分からない」と迷う生徒もいたが、「記者の立場が読み取れる記述」担当の抜き出しを根拠に『この言い方は批判している』など推論を補強できた。

生徒 A は、「報じられている事実」を担当し、当初は『「報じられている事実」と『記者の立場が読み取れる記述』の区別が難しかった』と記述していたが、同班の「記者の立場が読み取れる記述」担当の抜き出しを根拠に、「見出しやリード文から記者が伝えたい事実がだまかに書かれている」ことに気づき（資料③）、立場と区別しリード文を事実として抜き出すことができた（資料④）。

第 3 時では、ジグソー学習として異なる観点の担当同士で情報交換し、共通点・相違点を整理した。特に、黒板に『記事 A の立場／記事 B の立場』を並べて書かせたことで、「立場が違う＝書き方が違う」という視点が全体に共有されやすくなり、生徒の発表でも『同じ出来事でも、片方は課題を強く言い切っている』『引用している項目が違う』『数字の出し方が違う』など、違いを根拠付きで説明する発言が増えた。さらに『報道文を読むときに気をつけるべきこと』を話し合い、①事実と意見を分ける ②見出しで印象が変わる ③誰の声を引用しているかを見る ④数字・データの出どころを確かめる ⑤書かれていない立場を想像する、といった注意点がまとめられた。この注意点は以降の新聞ストック記事選択・根拠提示の際に参照させ、『読む→書く』への転移を意図した。生徒 A は、第 2 時までは「こっちの方が正しいと思う」など価値判断が先行しがちだったが、板書で立場を並べた後、発表で「記事 A は“逆風”と書いている（言い切り）。記事 B は“対策”と条件がついている（慎重）」のように、語調（断定／限定）を根拠に違いを説明し、記事の要点を整理できた。



【資料③】
【生徒 A の振り返り】

第4時の冒頭で、投書のルール（字
数・引用の仕方・読者意識・差別/中
傷NG・二重投稿禁止）を確認し、『社
会に出す文章』であることを再度位置
づけた。その上で、意見整理シートを
配布し、客観性・信頼性を意識して整
理する方法を説明した。シートは、①
テーマ ②キーワード ③立場 ④理由
⑤根拠（新聞記事の出典） ⑥反対意
見と応答、の順に記入する形式とし、
「順番に書けば文章の形になる」構造
を明確にした。生徒の記入では、当
初、『理由は書けるが根拠が空欄』と
いう状況が見られたため、教師が意見
整理シートの『理由と根拠はセット』
を再確認するよう促した。その結果、
新聞記事や大手メディアの記事を根拠
として書く生徒が増え、自分の体験だ
けに頼らない説明へと方向づけができ
た。

[illegible]

⑤【信頼性】根拠はどれ？(□に✓) ☐新聞記事 ☒数字・データ ☒体験・観察 ☐専門家の意見 ☐ネット記事

ねる前にスマホをさわると、すぐに寝れなくて、睡眠不足になる。30分以上スマホをさわると、さわらないかて、睡眠の質に差がでる。

⑥【客観性】想定される反対の考えを1文で紹介→自分の答えを1文で書こう

〈反対意見〉 スマホは自由に使った方がストレスがたまらない。

〈わたしの答え〉 時間を決めれば、スマホも楽して、生活習慣も守れる。

5

う	人	だ	め	時	ら	自	お	た	ら	三	い	に	は	時	リ	ま	る	ホ	し	や	で	の	ま	い	み
こ	な	か	て	間	な	由	り	な	す	る	ね	間	長	ず	な	の	た	り	ス	ス	な	さ	な	さ	な
と	が	ら	を	い	に	た	れ	か	以	事	な	減	間	活	使	置	い	わ	の	ホ	ホ	人	を	け	
す	間	私	活	め	い	思	を	て	上	門	く	前	使	置	い	成	方	た	る	約	使	最	を	け	
す	を	も	習	て	う	た	見	唾	ス	家	て	に	て	う	慣	す	だ	に	し	と	六	用	新	使	
め	決	含	懐	使	意	方	た	眠	マ	の	ス	し	と	か	ぎ	っ	は	知	分	時	の	分	分	分	
た	め	め	も	え	見	か	私	の	ホ	調	垂	マ	ま	乱	る	理	い	時	り	の	間	続	て	が	
い	て	た	守	ば	も	ス	一	は	質	を	査	眠	ホ	う	他	れ	と	由	て	間	わ	一	は	計	
・	唾	れ	ス	あ	ト	方	ま	に	さ	で	不	き	か	の	る	唾	は	を	た	を	四	に	る	月	
ス	眠	る	マ	る	レ	て	さ	差	わ	は	足	解	ら	こ	か	眠	二	時	決	し	ス	時	よ	か	
マ	不	と	ホ	ス	ス	に	か	る	ね	に	と	ら	不	つ	間	め	は	マ	間	る	知	と	・	れ	
ホ	足	思	も	し	か	マ	そ	出	か	る	な	と	現	に	足	あ	を	た	驚	ホ	半	と	・	れ	
さ	の	う	聚	か	た	ホ	の	て	さ	前	す	に	使	次	に	る	決	ス	き	に	以	十	て	く	
使	み	・	し	し	手	は	と	い	わ	に	て	く	私	う	に	な	め	マ	き	習	上	代	い	ら	

【文書の構成】

①導入：わたしは（テーマ）について、（大切な見聞すべき点）と考える。

②意見：わたしは（立場）賛成／反対／提議）である。

③理由：理由（二）ある。まず、（理由①）。次に、（理由②）。

④根拠：（新聞名・日付「見出し」）によると、（数字・事実）が示されている。

⑤感嘆：一方で（反対意見）もある。しかし（自分の考え）。

⑥結び：だから、（たれ）が（何を）すること（求める／すすめたい）。

【文章の構成例】
 ①導入…わたしは（立論）賛成／反対／提案である。
 ②意見…わたしは（立論）賛成／反対／提案である。
 ③理由…理由は二つある。まず（理由①）、次に（理由②）。
 ④根拠…（新聞名、日付）「見出し」によると、（数字・事実）が示されている。
 ⑤配慮…一方で（反対意見）もある。しかし（自分の考え）。（数字・事実）が示されている。
 ⑥結び…だから、（たれ）が（何を）すること（求める／すすめたい）。

【資料⑥ 生徒 A のワークシート】

7 成果と課題

（1）研究の成果

ジグソー学習により観点別に記事を読み分けて共有する活動が成立し、事実と意見を区別して読む発言・記述が増えたことから、仮説1は一定程度支持されたとと言える。意見整理シートにより、理由と根拠（出典）の対応を意識した修正が見られ、投書文としての体裁（字数・出典・配慮）を整える学習が進んだことから、仮説2も一定程度支持されたとと言える。また、新聞のストックとタブレットへの保存により、日常の情報接触が学習に接続し、複数資料を参照して根拠を選ぶ姿勢の形成に寄与することができた。

（2）今後の課題

教科書の記事で獲得した観点を実際の新聞へ確実に転移させるためには、ストックした記事を同観点で短時間分析する橋渡し課題を単元途中に行う必要がある。また、変容をより客観的に示すため、ワークシートと投書文をループリック評価し、到達度の分布（割合等）を示す工夫が求められる。さらに、未完成者への支援として、段階別到達ライン（意見整理→下書き→推敲→清書）を明示し、個別支援時間や放課後のフォローを計画的に確保する必要がある。